

**開業1年半で、生徒数  
71名を確保！**

岩田英謙塾長（二十九歳）は大阪の有名大手進学塾で正社員として三年間勤務していた。だが、そこで様々な矛盾を感じ、自己実現への夢もあって昨年6月に独立。当初ビルの半地下を借りて一対三の個別専門塾でスタート。生徒はどんどん集まり、四〇名になつた時、現在のビルの一階に引っ越ししてきた。いま生徒数は七〇名を超える。開業してまだ一年五ヶ月である。この集客力、魅力はいったいどこにあるのだろうか。

勤めていた大手塾は大変勉強になりました。給与面での待遇がよく、会社の雰囲気も他社と違っていたのですが、その会社の風土に合う人間はいいんでした。すぐ辞めていくという感じでした。

そこで思ったことは、勉強ができる子には手厚いの

ですが、そうではなく、普通の子に対しては冷たいのです。象徴的なのは校門激励なんですね。上位の学校には塾の先生が組織的に行つて、レベル以下の塾生に対しては一切やらない。成績がさほど上がらなかつた子でも頑張ってきたことに変わりはない。同じように評価してあげたいと思いましました。塾生はその後仲間内で話している。一方では、誰々先生が来てくれたとか言つているのに、もう一方では誰も来てくれなかつたから言えない。可哀相だといましたね。しかし、社内では一切そういう話にな

ほかにも辞めた理由はあります。高校生の頃からいはずれは自分で会社をつくりたいとか、自由にやりたいという考えを持っていましたから、それも独立したきっかけです。

——場所をここにしたのは理由があるんですね。

それほど深い理由があつたわけではありません。人口とか、中学校の生徒数などを電話で調べていて、この辺りがあり塾がないということとで決めたんです。市役所へ行つて年齢別の人口といふのでも調べました。あと

は適當な不動産があるかどうかですね。——資金面はどうしましたか。

四〇〇万円弱は貯めていました。前の会社で入社してから独立することを考えていきましたからボーナスを一切使わず貯めました。ここに引つ越したときに親から一〇〇万円借りました。が、もう返済していく借金はありません。

した。先ほど言った「私が大手塾を辞めた三つの理由」と調い、大手塾が抱えていた構造的欠陥を書きました。

三つとは、先ほどの「えこひいき」のこと、大手では営業指標が最も優先され、オプション商品受講の営業をさせられること、そして個別の中学校に合った定期テスト対策が十分にできないこと、の三つです。

開塾時の「心意気」とし

ラシをよく読んでいて、良識のあるしつかりしたお母さん方でしたね。——教育理念について教えていただけますか。

書かせ、掲示板に貼つておく。そうすると、僕も私も私という具合に出てきますね。こういう演出は大事にしていきたい。

るお母さん方が多いと思いま  
す。

——親御さんたちとのコ  
ミュニケーションはどのよ  
うにしてますか。

毎月一回、ニュースレ  
ターを発行しています。そ  
のほかに親御さん一人ひと  
りに一筆箋で一言一言書い  
ています。毎月七十人の親  
御さんへ書くのですが、そ  
んなにプレッシャーは感じ  
ません、慣れてきました

開塾時のチラシ  
で集まつた  
四人

で三ヶ月の成績保証制度  
最大三週間の無料体験授業、特別モニター募集  
(授業料30%引き)など、  
大手にはできないサービス  
をぶちあげました。文章だ  
らけのチラシになつてしま  
つたけど、きちんと読ん  
でいただけるチラシにした  
つもりです。

娘がります。頑張らせる人ですが、自分の力でやつてあるんだというように思われる演出が必要です。

例えば定期テストの一週間前、朝の6時半から8時まで早朝特訓というのをやっています。来なさい来なさいとは言つていませんが、友だち同士誘い合つて

という話を聞きますが、二  
ちらではしっかりと中学生を  
確保している。その要因は  
何でしょう。

ね、ワーフォードと無機質な  
し、絶対手書きのほうがい  
いと思います。

——これから展望はいか  
がでしようか。

ほかに教室を増やそう  
という考えはまったくあ  
りません。ここから動くこ  
とはまずないでしょう。改  
善する点は山ほどあるの

「一万萬歳」と書かれた横断幕が、会場の中央に掲げられ、その左側には、各学年による書道の展示が並んでいた。また、各学年の生徒たちが、各自で準備した手作りの看板を、会場内に設置していた。この中で、最も目立つのが、四年生による「お母さんありがとう」の看板だった。この看板は、白い紙に黒い墨で書かれており、手書きの字體が、とても温かみのある感じを与えていた。この看板の前で、多くの生徒たちが、お母さんの方へ感謝の言葉を述べながら、手渡していた。その中で、特に印象的だったのが、五年生の田中君の言葉だった。「お母さんは、私たちの人生で最も大切な存在です。これからも、ずっと支えてくれるでしょう」と、優しく語った田中君の姿が、心に残った。この式典は、多くの生徒たちが、お母さんへの感謝の意を込めて、手作りの看板を作成し、それを通じて、お母さんへの感謝の意を表すものだった。この式典を通じて、生徒たちは、お母さんに対する感謝の意を深めることができた。また、お母さんたちは、自分の子供たちが、このような形で感謝の意を表す姿を見て、とても感動的だったようだ。この式典は、とても感動的なものだった。

かこた。塾の指導が悪いのではないかとか言うお母さんはまつたくないません。

日常の生活、学校や家庭での勉強も大切で、すべてを含めた上で成績が上ががる、そのことを自覚してい

で、それを改善しつつ質を高め、生徒数を九〇人くらいいまでにしたいと思います。あとは、落ち着いたら個別指導の塾で使えるよう、教材を作つて、出版したいですね。